

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

12月31日に終了しました2009年3月期第3四半期連結累計期間(2008年4月1日から12月31日の9ヶ月間)の連結業績は次のとおりです。

当社の連結業績に影響を与えるエレクトロニクス市場において、高い機能を有する電子機器(映像関連機器、パーソナルコンピュータ(以下、PC)、携帯電話等)を中心に需要が低迷しております。特に需要が旺盛となる第3四半期には金融危機が实体经济に深刻な影響を与えたことで電子機器の需要が減少し、生産調整が始まりました。その結果、電子部品の需要も大きく減退しました。さらに、需給環境の悪化により価格下落が進行したことと、米ドルに対して円が急騰したことも業績に影響を与えております。

このような事業環境のなか、当社の連結業績は、売上高 5,883 億 16 百万円(前年同期 6,584 億 30 百万円、前年同期比 10.6%減)、営業利益 92 億 72 百万円(前年同期 738 億 62 百万円、前年同期比 87.4%減)、税引前四半期純損失 3 億 3 百万円(前年同期は 770 億 2 百万円の利益)、四半期純損失 24 億 49 百万円(前年同期は 563 億 39 百万円の利益)、1株当たり四半期純損失金額 18 円 99 銭(前年同期は 433 円 55 銭の利益)となりました。

2008年10月17日に当社は、EPCOS AG(本社:ドイツ、社長兼 CEO:Gerhard Pegam)とその子会社(以下、EPCOSグループ)を連結子会社としました。それに伴い、当社の当第3四半期連結累計期間の業績にEPCOSグループの業績を含めております。

当第3四半期連結累計期間における対米ドル及びユーロの期中平均為替レートは、102 円 92 銭及び 151 円 7 銭と前年同期に比べそれぞれ 12.3%及び 7.2%の円高となりました。この為替変動による影響額は、売上高で約 623 億円、営業利益で約 198 億円のそれぞれ減少となりました。

(単位:百万円, %)

科目	前第3四半期 連結累計期間 (2007.4.1~2007.12.31)		当第3四半期 連結累計期間 (2008.4.1~2008.12.31)		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	増減率
売上高	658,430	100.0	588,316	100.0	△70,114	△10.6
営業利益	73,862	11.2	9,272	1.6	△64,590	△87.4
税引前四半期純利益(△損失)	77,002	11.7	△303	△0.1	△77,305	—
四半期純利益(△損失)	56,339	8.6	△2,449	△0.4	△58,788	—
1株当たり四半期 純利益(△損失)金額:						
—基本	433 円 55 銭		△18 円 99 銭			
—希薄化後	433 円 06 銭		△18 円 99 銭			

## ＜製品別売上高の概況＞

(単位:百万円, %)

製品	期	前第 3 四半期 連結累計期間 (2007.4.1～2007.12.31)		当第 3 四半期 連結累計期間 (2008.4.1～2008.12.31)		増減	
		金額	売上高比	金額	売上高比	金額	増減率
電子材料		154,187	23.4	124,210	21.1	△29,977	△19.4
電子デバイス		157,732	24.0	137,127	23.3	△20,605	△13.1
記録デバイス		246,830	37.5	208,420	35.4	△38,410	△15.6
その他		99,681	15.1	118,559	20.2	18,878	18.9
売上高合計		658,430	100.0	588,316	100.0	△70,114	△10.6
海外売上高(内数)		543,314	82.5	496,026	84.3	△47,288	△8.7

当社の売上高は(1)電子材料 (2)電子デバイス (3)記録デバイス (4)その他 4つの製品区分で構成されます。なお当四半期より連結子会社となったEPCOSグループの売上高は、製品セグメントの定義が当社の定義と必ずしも一致していないため、「その他」に含めております。また、2007年8月にTDKブランド記録メディア販売事業を譲渡したことにより、記録メディア製品の売上高が大きく減少しました。この結果、当第3四半期連結累計期間における記録メディア製品の売上構成比は10%未満となったため、記録メディア製品の売上高については「その他」に含めて開示しております。売上概況を製品区分別にみますと、次のとおりです。

## (1)電子材料

当製品区分は「コンデンサ」、「フェライトコア及びマグネット」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,242億10百万円(前年同期1,541億87百万円、前年同期比19.4%減)となりました。

「コンデンサ」:売上高は前年同期と比較して減少しました。主要品目である積層セラミックチップコンデンサは、主要製品(PC、AV/ゲーム、携帯電話、カーエレクトロニクス)向けで販売が減少しました。需要減退、価格下落及び米ドルに対する円高の影響を受けたことが減収の要因です。

「フェライトコア及びマグネット」:売上高は前年同期と比較して減少しました。フェライトコアとマグネットがいずれも各々の主要製品向けで減収となりました。

## (2)電子デバイス

当製品区分は「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」及び「その他」の3つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,371億27百万円(前年同期1,577億32百万円、前年同期比13.1%減)となりました。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前年同期と比較して減少しました。特に、コイル製品は自動車市場向け、EMC製品は携帯電話向け、トランスは電源製品向けの販売が各々減少したことが主な要因です。

「高周波部品」:売上高は前年同期と比較して減少しました。特に、PC向けの販売が減少したことが主な要因です。

「その他」:売上高は前年同期と比較して減少しました。センサ・アクチュエータの増収が、電源製品における一部製品の終息と半導体を含む製造設備市場向けの販売減少による減収を補うことができませんでした。

## (3)記録デバイス

当製品区分は「HDD 用ヘッド」、「その他」の 2 つで構成されます。

当製品区分の売上高は、2,084 億 20 百万円(前年同期 2,468 億 30 百万円、前年同期比 15.6%減)となりました。「HDD 用ヘッド」:売上高は前年同期と比較して減少しました。第 3 四半期に入りハードディスクドライブ(以下、HDD)の需要が縮小したことに伴い、搭載される HDD 用ヘッドの需要も減退しました。当第 3 四半期連結累計期間では前年同期比で HDD 用ヘッドの販売数量が増加したものの、価格下落及び米ドルに対する円高の影響があり、売上高は減少しました。

「その他」:売上高は前年同期と比較して増加しました。2007 年 11 月に子会社化した HDD サスペンション事業の売上高が、当期から寄与したことが主な要因です。

## (4)その他

当製品区分は、上記 3 製品区分を除くすべての製品から構成されます。当製品区分の売上高は、1,185 億 59 百万円(前年同期 996 億 81 百万円、前年同期比 18.9%増)となりました。内、EPCOS グループの売上高は 358 億 78 百万円です。EPCOS グループの取扱製品を除く代表的な製品は<記録メディア>、<電波暗室>、<メカトロニクス(製造設備)>及び<エナジーデバイス(二次電池)>です。エナジーデバイスの売上高は増加しましたが、記録メディア、電波暗室、メカトロニクスの売上高は減少しました。

<海外売上高の概況>詳細については 12 ページのセグメント情報をご参照ください。

「日本」の売上高は減少しました。電子材料を除く 3 製品区分の売上高が各々減少しました。

「米州」の売上高は減少しました。記録デバイスを除く 3 製品区分の売上高が各々減少しました。

「欧州」の売上高は増加しました。その他を除く 3 製品区分の売上高が各々減少しました。その他は EPCOS グループの売上高が寄与したことにより、増加しました。

「アジア他」の売上高は減少しました。その他を除く 3 製品区分の売上高が各々減少しました。その他の内容をみると、EPCOS グループの売上高の寄与に加えて、他の製品群でも売上高が増加しました。

この結果、海外売上高の合計は、前年同期の 5,433 億 14 百万円から 8.7%減少の 4,960 億 26 百万円となり、連結売上高に対する海外売上高の比率は、前年同期の 82.5%から 1.8 ポイント増加し 84.3%となりました。